こまつの魅力再発見

人々を魅了し続ける「珠玉と石の文化」

2千年以上にわたり受け継がれるこまつの「石文化」。市ではこれまでの歌舞伎、科学とひとづくり、乗りもの、環境王国の4つのテーマに加え「珠玉と石の文化」という新たなテーマを掲げ、ものづくりの原点ともいえる「石文化」の魅力を発信していきます。今月からシリーズで詳しく紹介します。

問い合わせ　観光交流課　☎24・8076

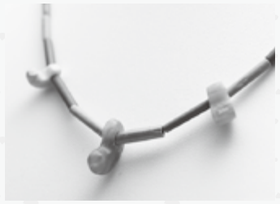
古代

●最先端の技術で作られた管玉
那谷・菩提・滝ヶ原で碧玉が産出し、弥生時代には八日市地方で管玉を生産。

●小松産玉つくりのブランド化
全国に小松ブランドの玉が広まり、大量生産が行われた。

●朝鮮半島から伝来した石室技術
河田山古墳群（国府台）の石室は全国でも例を見ない奇麗なアーチ型の天井になっている。

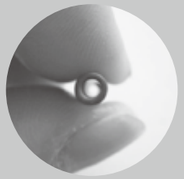
河田山古墳の石室


八日市地方遺跡出土碧玉製管玉（国指定重要文化財）

ココがすごい!! ①

日本各地の王を魅了した「碧玉アクセサリー」

硬い碧玉を直径2ミリの円柱に仕上げ、中心部に直径1ミリの孔を開けた管玉。当時の最先端と言える驚異的な加工技術を誇っていたことがうかがえます。まさに小松の「ものづくりのまち」のDNAがここにあります。


◀碧玉に石の針で開けた孔

中世

近世

●小松城天守台の石垣
小松城の石垣は高いデザイン性を追及した美しい石積みとなっている。

●活用される小松の石
小松には約30カ所の石切り場が開かれ「凝灰岩」の石材が庶民の暮らしで使用された。
中でも丈夫な「観音下石（日華石）」は、昭和初期の二度の大火でも割れずに残り、石蔵などのほか、全国の有名建造物にも使用された。

日本酒醸造の石蔵
東酒造（国登録文化財）

色調豊かな石材が積まれた
小松城の石垣（市指定文化財）

ココがすごい!! ②

全国的にも貴重な「滝ヶ原アーチ石橋群」

滝ヶ原にはアーチ型石橋群が5つ残っており、国内で一つの地域にまとまった石橋が現存するのは本州では滝ヶ原だけです。

我山橋（市指定文化財）

近・現代

●ジャパンクタニを生んだ陶石
明治時代に「ジャパンクタニ」と海外で称賛された九谷焼。九谷焼の原料は、花坂地区で産出された陶石が使われている。

●鉄工機械産業発展の原点
江戸末期に開発された尾小屋鉱山は明治期に日本有数の生産量を誇り、遊泉寺銅山は工業技術の発展とものづくり産業の基盤となる小松製作所を生み出した。

遊泉寺銅山跡の
大煙突

昔ながらの技法を受け継ぐ
九谷焼製土場

ココがすごい!! ③

歴史的建造物にも採用された「観音下石」

小松産の観音下石（日華石）は、湿気に強くカビが繁殖しにくいことから高く評価され、国会議事堂のほか、甲子園会館（国登録有形文化財）などにも使用されています。

甲子園会館（旧甲子園ホテル）

そして……現代

これからも、脈々と受け継がれる「石文化」の歴史と価値、そして「ものづくり」の技術とまちづくりをストーリーとして発信し、産業観光のまちづくりを進めていきます。

滝ヶ原に今も受け継がれる石彫りの技術

Interview

小松には世界的な建設機械メーカーなどの産業資本のほか、日本の伝統工芸を代表する九谷焼などの文化資本が共存しています。このような資源が数多く存在するのは、古くから小松の人々が原石を掘り起こし、時代の先を行く変革の精神と技術で磨き上げてきたからです。

こうした革新的なエネルギーを持っていることは小松の強みであり、今後の更なる磨き上げに私も尽力していきたいと思います。

こまつ遺産アドバイザリーコミッティー委員
望月照彦さん

「こまつ遺産アドバイザリーコミッティー」を設立！

小松の魅力を高め、戦略的に国内外に発信するため、経済・観光・文化の5人の有識者からなる委員会を設立しました。委員の皆様からの提言を元に歌舞伎、環境王国、石文化などのテーマについてそれぞれの価値を高めていきます。

初会合の様子（11月19日）

■委員（敬称略・50音順）
黒本和憲（コマツ取締役・常務執行役員）、佐古愛己（佛教大学歴史学部准教授）、清丸惠三郎（歴思書院編集プロデューサー）、見並陽一（日本観光振興協会理事長）、望月照彦（多摩大学名誉教授）